

平成24年度

学校評価

総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を身につけさせる

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
確かな学力を身につけさせる。	(全校レベル) I) 学習指導の充実 II) 課外学習の充実 (下位組織レベル) 1) 指導方法を工夫・改善し、わかる授業、力をつける授業を実践する。 2) 理数科教育を充実させ、応用力や発展的な学力を身につけさせる。 3) 『朝学』を計画的に実施し、有効活用を図る。 4) 補習授業を充実させる。	評価指標 1) ①1学期に相互授業参観を実施し、一人5回以上他の教員の授業を参観する。 ②2学期に指導主事出席のもと、研究授業や研究協議を実施し、授業者を含めた全ての教員の指導法向上につなげる。 ③授業評価を10月に実施し、肯定的な評価8割以上を目指す。その結果を10月以降の授業改善につなげる。	評価指標の達成度 1) ①ほとんど全ての教員が他の教員の授業を5回以上参観した。 ②英語・数学・国語の3教科で研究協議を実施し、研究協議がおこなわれた。 ③10月に全ての教科で授業評価を実施した。肯定的な評価は88.5%であった。	総合評価 (評定) A (所見) 評価指標関連については概ね達成できた。 確かな学力を身につけさせる取り組みについては、予定通り実施できた。定期考査の欠点者数が昨年度と比較すると4割程度減少しており、ある程度の基礎力の定着にはつながっていると思われる。 3年次について早朝補習による得意教科の早期の足固めは、1学期における模試結果からも成果があった。 compass・土曜日補習も予定通り実施でき、一定の成果を修めることができた。 ただし、模試結果からはまだ改善の余地があると考えられる。	総合評価Aは妥当である。 Compassの合格率は昨年に比べ上がっている点で評価できる。 各種の補習についての取り組みは、結果に結びついていると考えられる。引き続き実施してほしい。	○授業参観の回数を増やしたり、参観した授業に対する意見が伝わりやすい方法を考える。 ○研究授業は継続した方がよい。 ○授業評価を必ず教科会で検証し、授業改善を教科全体で取り組むよう努める。 ○難関大の担当者会議を持って方針を共有する必要がある。 ○『朝学』は生活のリズムとして定着したが、特定の生徒が遅れてくることもあり、その対策を考えなければならない。 ○土曜日補習の満足度は生徒・保護者とも例年80%以上の満足度を得ているが、補習実施日及び内容については更に検討していく必要がある。 ○国公立センター無し推薦入試時期に重なっている早朝マークトレーニングIIIへの参加率が低い。実施時期等について検討する必要がある。
		活動計画 1) ①相互授業参観週間で他の教員の授業参観や他の教員からの助言等を通して、授業改善を図る。 ②2学期に3～4科目で指導主事に出席を依頼し、研究授業を実施する。授業参観・研究協議に全教員が参加する。	活動計画の実施状況 1) ①他の教員の授業参観目標は達成できたが、授業者に対する感想や助言が十分おこなわれていなかった。 ②研究授業・研究協議ともに中味の濃いものであった。授業者の負担はあるが、多くの教員が肯定的に捉えていた。			

		<p>③10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を分析し、各自が授業改善に努める。</p> <p>2) ①英語・数学・国語の授業を習熟度別に実施する。</p> <p>②各教科の難関大担当者が入試問題を分析し、そのレベルに対応できる力を身につけさせる授業・課題を実施する。</p> <p>3) ①compassの出題範囲・内容を精選し、合格率80%以上を目指す。</p> <p>②自習プリントや小テストおよび「朝読」の書籍を設定する。</p> <p>4) ①文系は英国社・理系は数理の早朝補習を40回実施し、早期に得意教科の足固めを図る。</p> <p>②土曜日において、英数国から2教科選択して理解しにくい分野の補強・校外模試対策などテーマを絞った効果的な補習を実施する。</p> <p>③実践マーク問題の演習及び解説を通して理解不十分の事項の解消を図る。</p>	<p>③昨年度に比べ、肯定的な意見は3%増えたが、教科会での検証は十分とは言えない。</p> <p>2) ①理数科については2年次から英語・数学・国語において、普通科については国語を2年次から、数学を3年次から習熟度別に授業を実施した。</p> <p>②難関大志望者に対しては個別に課題を与えたり、どこでつまづいているかを確認していたが、担当者間での指導の共有は不十分なところがあった。</p> <p>3) ①Compass合格率(50点満点中30以上が合格) 1年次全体 86.2%(昨年度77.7%) (国語90.2%, 数学86.0%, 英語82.3%) 2年次全体 77.5%(昨年度58.2%) (国語87.0%, 数学77.0%, 英語69.0%) ②学級文庫は開設しているが『朝読』の書籍設定はできていない。</p> <p>4) ①文系では22~26名参加し、理系では48~60名参加した。4月18日から9月28日まで、同一科目を40回実施することで、得意教科の成績が向上した。</p> <p>②9月15日より1・2年次生の希望者215人(昨年度271人)に対し、英数国から2教科を選択させ11回の補習を実施した。(昨年度は11回) 補習内容は、英数国各教科内で検討し、学習進度や実施時期に合わせた内容とした。</p> <p>土曜補習を活用している 生徒の満足度は81.8%(昨年度は81.6%) 保護者の満足度は91.2%(昨年度は91.5%)</p> <p>③期間:10月3日~11月16日 (1日につき1科目) 各科目3回(早朝マークトレーニングⅠ・Ⅱ・Ⅲ)実施。</p>			
--	--	---	--	--	--	--

◎ 2. 生活指導の充実を図る

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の評価	
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)		
生徒指導の充実を図る。	(全校レベル)					総合評価Bは妥当である。	
	I) 生徒指導の充実 II) 健康教育の充実 III) 教育相談の充実						
	(下位組織レベル)					評価指標は達成できているが、生徒の登下校中における交通安全について、問題点が残っていると言うことなので、次年度にこの結果を活かしてほしい。	○正しく制服を着用するという意識は高まってきている。違反を繰り返す生徒の指導を徹底する。 ○全員が『朝学』に取り組めるよう指導を強化していく。 ○関係機関と連携し交通安全教育を推進する。朝の街頭通学指導・あいさつ運動・駐輪指導を継続していく。
1) 基本的な生活習慣の育成に努める。	1) ①常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ②遅刻者を前年度より50%以上減少させる。	1) ①常時指導や頭髪・服装指導をすることにより違反者が減少した。駐輪マナーが改善、90%以上の生徒が施錠できるようになった。 ②遅刻者は前年比30%減。	B	(所見) 評価指標関連については概ね達成できた。 教職員の協力体制により、積極的な生徒指導が展開できた。			
2) 規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。	2) ①携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ②交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。	2) ①1年次生対象に実施し啓発に努めた。 ②交通事故が19件発生（前年12件）重大交通事故が1件発生した。	C				
3) 生徒一人ひとりを大切にしたい指導を通して、他者を思いやる心を育み、自尊感情を育てる。	3) ①面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回（6月・10月）実施する。三者面談を年間1回実施する。 ②人権教育課と連携し、講演会を実施する。	3) ①個人面接を実施することにより生徒理解や積極的な生徒指導に繋がった。 ②講演会を実施した。	B				
4) 「早寝、早起き、朝ご飯」を推奨し、生活習慣の改善を図る。	4) ①保健だよりを年間5回以上発行し、生活習慣の改善について啓発を図る。 ②生活習慣についての実態調査をおこなう。	4) ①年間6回保健だよりを発行し、全生徒に配布して啓発活動を推進した。 ②実態調査を実施し、結果を保健だよりに掲載し、啓発に生かした。	A	生徒の実態に応じた啓発内容とすることができ、効果的な啓発がおこなえた。	○年次進行に伴う、生活習慣についての意識の変化を調査し、効果の検証をおこなう。		
5) 生徒の悩みや相談に対応できるよう教育相談室を有効活用する。	5) ①昼休みに相談室を開放して、生徒の相談に対応できるようにする。（週3回）	5) ①定期的に相談室を開放することにより相談体制が整った。	A	教育相談課としての機能が確立してきた。	○定期的に相談室に相談相談に応じる体制を継続する。		
	活動計画	活動計画の実施状況					
	1) ①頭髪・服装違反検査（毎月）を実施する。 ②毎週末、遅刻指導を実施する。	1) ①全校集会・年次集会時に頭髪・服装検査を実施し、後日再検査を実施した。 ②毎週末指導以外に遅刻防止月間を設定した。					
	2) ①携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ②全校生徒を対象に交通マナーアップ講話を実施する。 ③交通マナーアップ活動（生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ）を実施する。	2) ①6月に携帯電話安全教室、10月に薬物乱用防止教室を実施した。 ②4月に交通マナーアップ講話を実施した。 ③生徒会・部活動が輪番で交通マナーアップ活動（あいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ）を実施した。					

		<p>④自転車・原付自転車の整備点検をし整備不良車は再点検を実施する。(年2回)</p> <p>⑤毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木曜日に富西前交差点で通学指導を実施する。</p> <p>⑥原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。</p>	<p>④4月・9月に点検週間を設け自転車・原付自転車の整備点検を実施した。</p> <p>⑤毎月、学校安全の日に街頭通学指導を実施し、月～木曜日に富西前交差点で通学指導を実施した。</p> <p>⑥7月に原付免許証取得者実技講習会を阿南自動車学校で実施した。</p>			
		<p>3) ①面接週間を4回、特別面接週間(6月・10月)、三者面談を実施する。</p> <p>②年次会情報交換を実施する。(随時)</p> <p>③人権教育課と連携し講演会を実施する。</p>	<p>3) ①4.6.9.1月に面接週間、6,10月に特別面接週間を実施し、夏季に三者面談を実施した。</p> <p>②年次会で情報交換を実施した。</p> <p>③9月に人権啓発講演会を実施した。</p>			
		<p>4) ①保健だより、生活習慣の改善に関する記事を組み、生徒の意識啓発を図る。</p> <p>②生徒全員を対象とした、生活習慣についての調査により、実態把握をおこない意識啓発に生かす。</p>	<p>4) ①生活習慣についての意識調査を実施し、本校生徒の状況と改善についての記事を保健だよりに掲載し、啓発を進めた。</p> <p>②生活習慣についての実態調査をおこない、結果を集計・分析し、啓発に生かした。</p>			
		<p>5) ①原則として火、木、金曜日の昼休みに相談室で生徒の相談を受け付けていることを生徒に知らせ、その日は課員が在室して生徒の相談に対応できるようにする。</p>	<p>5) ①特別な行事や時間割変更が無いときは火、木、金曜日に相談課員が相談室に待機し、相談に応じた。</p>			

◎ 3. 豊かな人間性と社会性を培う

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
豊かな人間性と社会性を培い、「学び合い、高め合い。支え合う」集団をつくる。	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)	総合評価Aは妥当である。 次年度は、清掃ボランティア活動をよりよい取り組みにしてほしい。また、人権ホームルーム活動の計画の充実を図ってほしい。 ○年間計画の中で、それぞれの学校行事を日程的に無理のない時期に設定する。 ○学校行事の計画・運営において、生徒の教師に対する依存傾向がある。自主性や創造性、協調性等を育成できるよう指導に工夫をしていきたい。 ○清掃ボランティア活動を通して、生徒の自主性や日常生活でゴミの分別に対する意識が高まるよう働きかけをおこなう。 ○人権学習ホームルーム活動の事前研修会の充実を図る必要があるので、行事計画に組み入れ、確実に実施したい。 ○生徒の関心・理解・共感が得られるような「富西人権の日」の行事になるように創意工夫する。 ○社会問題研究部員を確保し、人権委員会と連携がとれるようにしたい。 ○「ライブラリーニュース」の掲示の仕方を工夫して、啓発活動に力を入れていきたい。
	I) 特別活動の充実 II) 人権教育の充実 III) 読書活動の推進				A	
	(下位組織レベル)				(所見) 評価指標関連についてはほぼ達成できた。 学校行事や部活動関連会議は計画通り実施し一定の成果を残した。	
	1) 部活動、生徒会活動等を活性化し、連帯感を持たせ、協同の精神や愛校心を育てる。	1) ①部活動主将・部長会議を年間2回実施する。 ②各種研修会を年間2回実施する。	1) ①部活動主将・部長会議を5月と10月に実施。また、全校集会で活動の在り方や諸注意を全体に呼びかけた。 ②各種委員会を4月と10月に、ホームルームリーダー研修会を5月と10月にそれぞれ実施した。	A		
	2) 学校行事や部活動等をとおして、調和のとれた人間性を育成する。	2) ①学校祭へ来校する一般者数は600人以上。 ②学校祭をはじめとする学校行事の満足度80%以上。 ③部活動への入部率を80%以上。	2) ①学校祭期間中の一般来場者は970人であった。 ②生徒の学校行事に対する満足度は86%であった。 ③部活動への入部率は84.6%であった。	A		
	3) ボランティア活動等をとおして、社会参加の意識を高め、奉仕の心を育む。	3) ホームルーム活動で、年次ごとに学校周辺と桑野川河川敷の清掃ボランティアを実施する。	3) 各年次ごとに事前研修を実施し清掃ボランティア活動を1回ずつおこなった。	B		
	4) 自らを尊重すると同時に他者を尊重し、人権に対する鋭い感性を磨き、常に相手の立場に立って考え行動することのできる人づくりをめざす。	4) ①人権学習ホームルーム活動を年間7回実施する。 ②「富西人権の日」を月1回実施する。	4) ①人権学習ホームルーム活動を各年次、年間7回ずつ行うことにより、人権意識の高揚に努めた。 ②月1回の「富西人権の日」では、様々な行事を企画・運営と実施できた。	B	人権学習ホームルーム活動の満足度から考えると、今後の改善が必要である。	
	5) 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成を図る。	5) 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	5) 「じんけん富西」の発行や、富西祭での展示、身元調査お断りワッペン啓発活動参加など、積極的に活動した。	A		
	6) 読書活動の啓発を行い、読書の習慣化を図る。	6) ①「ライブラリーニュース」を定期的に年間8回以上発行する。 ②年2回読書会を開催する。	6) ①「ライブラリーニュース」を年間9回発行した。 ②年2回読書会を開催した。	B	活動は計画通り実行できたが、「ライブラリーニュース」の存在が十分生徒のなかで行き渡ってなかったようである。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
	1) ①部活動部長・部員集会を(4月・10月)に実施する。また、必要に応じて適宜部長会議等を開催する。 ②各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。	1) ①部活動のあり方や各部のリーダーとしての心構えについて生徒に指導した。しかし、実際の部活動で生徒たちに自主性や公共心が芽生えたかといえば疑問が残る。 ②内容の整理を図るとともに、自主的活動となるよう促した。				
	2) ①学校祭を9月実施とし、一般公開する。	2) ①文化祭は9月8日・9日、体育祭を12日に実				

		<p>②各行事終了後にアンケートを実施し検証する。</p> <p>③4月と2月で入部率を調査・把握する。</p> <p>3) 学期ごとに各年次1回ずつ清掃ボランティアを実施。ゴミの回収から分別まで正確におこなう。</p> <p>4) ①人権学習ホームルーム活動を年間7回実施する。</p> <p>②各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。</p> <p>③「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。</p> <p>5) ①人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。</p> <p>②人権委員会の富西祭での展示，社会問題研究部の自主研修を支援する。</p> <p>6) ①図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成し発行する。</p> <p>②図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。</p>	<p>施した。一般来場者数は文化祭初日815名，2日目は52名で，体育祭は103名であった。運営上の問題もなく安全にすべての内容を実施した。</p> <p>②富西祭や球技大会，予餞会などでアンケートを実施し，生徒の意見が反映した行事になるよう検証をおこなった。</p> <p>③4月末時点で84.6%であった入部率は，2月調査では94.1%と大幅に増加した。</p> <p>3) 市の職員を招いてゴミの分別についての事前研修を実施し，その後清掃ボランティア活動をおこなった。活動を通じて積極的な自主性を養うまでにはいかなかった。</p> <p>4) ①人権学習ホームルーム活動の準備が万全ではなく，記録簿やアンケートによると，指導者の満足のいく授業ができていないという結果が多く見られる。</p> <p>②各年次とも事前研修会がきっちりともたれていない。</p> <p>③担任・副担任のメッセージや映画会，「じんけん富西」の発行等，様々な企画を運営することができた。</p> <p>5) ①人権委員の意見や感想等をできるだけ取り入れた「じんけん富西」を作成・発行できた。</p> <p>②各年次，前期後期とも2回以上の人権委員会を実施し，富西祭の展示も主体的に行うことができたが，社会問題研究部員は3年次生のみであり，主立った活動ができなかった。</p> <p>6) ①図書委員会で新着図書や推薦図書を入れた「ライブラリーニュース」を作成・発行し，教室に掲示した。</p> <p>②図書委員で本を選定し，ポスターを掲示して参加を呼びかけた。委員長を中心に読書会を行った。</p>			
--	--	---	---	--	--	--

◎ 4. 進路志望の実現を図る

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る。	(全校レベル) 1) 進路指導の充実	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B	総合評価Bは妥当である。 総合的な学習の時間の全体的な充実を望む。
	(下位組織レベル) 1) 生徒の能力、適性に合った進路を実現させるため、きめ細かい指導ができる進路指導体制を整備する。	1) ①進路設計についてのホームルーム活動を各学期2回実施する。 各年次で進路講演会を年間2回実施する。 (生徒対象1回, 保護者対象1回) ②生徒・保護者対象の進路講演会を実施し、最新の進路情報を提供する。 ③夏季休業中のオープンキャンパスへの参加率1年次35%, 2年次60%, 3年次80%以上を目指す。	1) ①各学期2回の進路ホームルーム活動のほか、各年次集会で進路に対する意識の高揚を図った。 ②1年次は11月にベネッセコーポレーション水野琢朗氏, 2年次は10月に近畿大学入学センター高大連携課屋木清孝氏, 12月には1・2年次合同で産業カウンセラー武田由利子氏を招いて進路講演会を実施した。 ③徳島大・鳴門教育大等の夏期休業中及び秋期連休中でのオープンキャンパスへの参加率 1年次 25.4%(昨年度23.0%) 2年次 69.6%(昨年度49.3%) 3年次 79.9%(昨年度76.0%)		
	2) キャリア教育を推進し、組織的・計画的な進路指導を行うことにより、生徒が自らの在り方・生き方を考えられるよう支援する。	2) 総合的な学習の時間のテーマ「社会探究」において ①1年次では課題を発見し、各自の研究テーマを見つける。 ②2年次では研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回全体発表会を実施する。 ③3年次では志望理由書と小論文を併せて年間6回実施し、表現力強化を目指す。	2) ①1年次では所属する講座を決めて、自主研修のテーマと修学旅行の研修先を決定した。 ②2年次では自主研修発表を11月に実施し、発表後は自己の進路決定に役立てるため、進路ノートを活用した。 ③計画通り実施することができ、センター無し推薦等に向けての小論文講演会を7月に実施した。	B	
		活動計画	活動計画の実施状況		○年次で扱う内容について更に勉強会を持つ必要がある。 ○進路問題についてのホームルーム活動を生徒にとって魅力的な内容にするため、創意工夫が必要である。 ○今後も生徒の実態に応じた講演会・説明会を実施する。 ○保護者部会はできるだけ参加しやすい時間に設定する。 ○オープンキャンパスの参加率は前年度より向上したが、1年次は目標を下回り不十分であった。低学年でも魅力ある案内にする。

		<p>2) 進路設計についてのテーマに沿った学習の実施 各年次でテーマを決定し、進路ノート等を使って進路指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">① 1年次：望ましい職業観② 2年次：学部学科の研究③ 3年次：受験までのスケジュール、志望理由、面接、教科別受験対策など	<p>2) ① 1年次前半は各教科から「高校の学びを知る」として、「学び」の内容と職業や学問など社会との関わりについて講義した。後半は進路ノートを活用して、社会・職業・学問・進路を知り興味関心を深め課題研究の準備をすることができた。</p> <p>② 2年次前半は講座別の活動を通して、各自が個別にテーマを設定して、調査研究を行い、発表した。発表後は、社会・職業・学問・進路についての知識を深め、3年次の準備を進めた。</p> <p>③ 3年次では志望理由書を3回、小論文を3回実施した。</p>			
--	--	--	--	--	--	--

◎ 5. 環境教育・防災教育を推進する

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
環境教育・防災教育を推進する。	(全校レベル) I) 環境教育の充実 II) 防災教育の充実	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B	総合評価Bは妥当である。
	(下位組織レベル) 1) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。	1) ①清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が8割以上。 ②校外清掃ボランティアを年間15回以上実施する。(参加生徒延べ人数100名以上)	1) ①清掃にまじめに取り組んでいると考える生徒は6割強であり、評価指標を満たすことはできなかった。 ②校外清掃ボランティアは年間15回以上実施できた。参加生徒延べ人数は、環境委員会主催のものだけで150人を超える参加者があった。		
	2) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	2) ①年間20日以上、防災クラブの活動をおこなう。 ②防災に関する研修を年5回以上実施する。	2) ①年間延べ20回以上の活動を行うことができた。 ②防災クラブ員及び職員対象に研修の機会を5回以上設けた。	A	(所見) 評価指標関連については概ね達成できた。 昨年度よりはじめて校外清掃ボランティアは、呼びかけに応え、自主的に参加した生徒が半数以上であり、生徒の清掃ボランティアに対する意識に高まりがみられた。
		活動計画	活動計画の実施状況		
		1) ①校内の清掃活動を全員が時間いっぱい取り組むよう徹底する。 ②環境委員会主催で広く生徒に参加を呼び掛け、校外清掃ボランティア(通学路の清掃活動)をおこなう。 ③環境委員・部活動代表者対象にごみ分別教室を実施する。	1) ①全校集会での啓発や、環境委員から各ホームルームで呼びかけをおこなった。 ②環境委員会主催の清掃ボランティア「富西きれいにし隊」で、生徒に広く参加を呼び掛け、通学路の清掃活動をおこなった。 ③長期休業前や学校祭前にゴミ分別教室を実施し、適切なゴミの分別について啓発を進めた。		
		2) ①防災・減災マップの作製に取り組む。 ②避難所運営支援について、研修をおこなう。 ③防災・減災啓発資料(ポスター・垂れ幕等)を作成する。	2) ①本校南東地域の防災・減災マップを防災クラブの活動として作成した。 ②炊き出しや避難者の受付等の避難所運営支援研修を実施した。 ③国及び県から出された南海トラフ巨大地震の津波・震度想定を踏まえたポスター・垂れ幕を作成した。		○清掃への取り組み状況を客観的に判断する指標を策定する。 ○校外へ向けての防災クラブ活動の充実を図り、地域との連携を深める。

◎ 6. 開かれた学校づくり

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動を行う。 II) 開かれた学校づくりを推進する。	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定) A	総合評価Aは妥当である。 ホームページは、大変役立っている。しかし、携帯版ホームページが、一部の携帯機種で使えないようなので検討してほしい。 ○中学生体験入学での理数科の説明をもっと視覚に訴えるものにして、中学生にわかりやすいものにする。 ○地域説明会の参加が増えるように、日程を考慮する。 ○ホームページの更新に携わる職員を増やし、多様な情報発信をおこなう。また、携帯版ホームページ活用についての啓発を更に進める。 ○学校評価の結果を精査し、下位組織レベルの重点目標や評価指標に反映させる。 ○役員との協力を得て、役員以外のPTA活動参加に努める。
	(下位組織レベル) 1) 中学生体験入学、学校公開、地域説明会等を行い、積極的な広報活動を行う。	1) ①中学生体験入学を改善し、アピール度を高める。参加者は500名以上、参加者の肯定的な感想が8割以上を目指す。 ②学校公開は参加者100名以上を目指す。 ③地域説明会は5カ所で行い、合計200名以上の参加者を目指す。 ④年間2回以上の中学校訪問をおこなう。	1) ①中学生の参加者は521人で、肯定的な感想は約9割であった。 ②111名の参加があった。 ③5カ所で実施し、199名の参加があった。 ④小松島市と阿南市の中学校を2回訪問した。	A	(所見) 評価指標関連についてはほぼ達成できた。地域説明会は目標に1名足りなかったが、中学生体験入学や学校公開では目標を上回ることができた。中学校訪問も実施できた。	
	2) ホームページの充実を図る。	2) ①ホームページの更新を年間で50回以上行う。また、情報更新から2週間以内にホームページの更新をおこなう。 ②災害時対応のホームページを充実させる。	2) ①ホームページの更新回数は年間50回以上であった。また、学校生活の様子などについて、概ね迅速な情報更新を行うことができた。 ②携帯電話を活用した、情報提供及び、所在確認用の携帯版ホームページを作成した。	A	生徒の学校生活の様子を写真などをうい広報することができたとともに、携帯電話を活用して、迅速な広報、情報収集が可能になった。	
	3) 学校評価と学校関係者評価を実施する。	3) 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また、2月中旬には学校評議員を招いて学校関係者評価を実施する。	3) 学校評価推進委員会は年間5回開催し、今年度の学校評価を予定通り実施した。また、学校関係者評価は3月上旬に実施した。	A	計画通りすべて実施することができた。	
4) PTA役員会、牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行う。	4) ①PTA役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者を目指す。 ②牛岐同窓会総会を8月に実施し、70名以上の参加者を目指す。	4) ①PTA役員会は予定通り実施することができた。参加人数は30～40名程度であるが出席できない支部もあった。 ②71名の参加者があった。	B	計画通り実施することができた。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		1) ①中学生体験入学で生徒をもっと活用するなど、魅力的なものになるよう改善する。 ②学校公開を10/21(日)に実施することで多くの人が参加しやすいようにする。 ③阿南・小松島・那賀・羽ノ浦・美波地区で本校の教育活動等について説明する。 ④小松島以南の特に学校長が転任した中学校や本校への入学者が多い中学校を中心に訪問する。	1) ①生徒による学校説明や、日々の学校生活のビデオ紹介を中心とした。生徒の説明も昨年度より内容が充実していた。 ②日曜日に実施したため目標人数を上回ることができ、特に中学生の参加者が42名と昨年の24名から大幅に増えた。 ③予定していた5会場で実施した。本校での実施日が大雨だったため、目標には1名足りなかったが、例年よりは大幅に増えている。 ④小松島市・阿南市の中学校を全て訪問し、該当中学校の卒業生の進路や、本校の取り組みなどを説明した。			
		2) ①いろいろな行事や生徒活動等のホームページへの掲載を迅速におこなう。	2) ①トップページに学校行事及び部活動紹介にタブを作成し、系統的に掲載をおこなった。			

		<p>②ホームページの災害時等の緊急連絡の機能の充実を図る。</p> <p>3) 学校評価をおこなうことで学校の現状や課題について情報を共有化し、教育活動の活性化につなげる。</p> <p>4) ①開始時刻を18:30とし、出席しやすいようにする。 ②ハガキ、新聞、ホームページで案内し、広報に努める。また、電話などの問い合わせに丁寧に対応する。</p>	<p>②トップページに携帯版ホームページへのQRコードを準備するとともに、携帯版ホームページの中に災害時対応のページを作成した。</p> <p>3) 4月の学校評価推進委員会で、前年度の学校評価から新たな重点目標や評価指標を設定した。また、今年度の各課の取り組みにおける留意点となった。</p> <p>4) ①支部による差があった ②ハガキ、新聞による広報は十分実施できたが、ホームページの利用は不十分なものとなってしまった。</p>			
--	--	---	---	--	--	--